

地域農業のあり方を見直すため市町村主導により作成した人・農地プラン

しょうわむらしもなかつがわ

(福島県昭和村下中津川地域ほか7地域(H24.6作成、H25.1見直し、H25.6見直し、H26.12見直し))

《概要・データ》

地域の特徴	会津地域のほぼ中央に位置する山間地であり、総面積の9割を山林が占める特別豪雪地帯。水稻のほか、山間高冷地の立地条件とその優位性を活かしたカスミソウ栽培が盛ん。地域内農家数339戸、地域内農地面積316ha。
中心経営体	個別経営 54名 法人経営 1
出し手となる農業者	87名
農地集積	現状(H23) 133.4 ha(集積率42%) → 目標(H28) 151ha(集積率48%)

《特徴的な取組》

- 昭和村における人・農地プランは、高齢化率が5割を超え、農地や営農技術の承継が課題となっている同村において、今後の地域農業について話合うこと、地域の担い手(新規就農者等)と地域との関り合いを見直すこと等について認識共有できる良い機会であると捉え推進。これらを進めていくには地域でのしっかりとした話合いが必要であることから、村、農業委員会、JA、県等が役割分担を行い字単位の団地化を目的とした交換耕作を推進した。
- 特定農業法人を中心に農地集積を進め、効率的で低コストな生産体制を構築し、特別栽培米等の米づくりに取り組む。また、米以外にも銘柄そばの産地確立と遊休農地の解消を目指す。
- プランの話合い等により、農地中間管理機構に貸付を希望する農地については、特定農業団体が中心となって引き受け、平成26年度には11ha、平成27年度には15ha(予定)の農地が農地中間管理機構を通じて中心経営体等に貸付け。また、機構への貸付けによって交付される地域集積協力金については、各地域の農用地利用改善団体が管理し、農業用水路や農道の管理に活用している。
- これまでカスミソウ栽培の新規就農者を村単独事業で受け入れており、新規就農者をプラン見直しの際に中心経営体として位置付けている(平成25年1月:6戸11名。平成25年6月:1戸1名)。

《プラン作成・見直しの経緯》

- 平成24年3月に村内農業者に対する説明会を開催。
- 平成24年6月に検討会を開催しプラン決定。
- 平成25年1月、平成25年6月、平成26年12月プランを見直し。



プランに位置付けられた中心経営体の方々

(昭和村位置図)

